

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001195		
法人名	有限会社 だんらん		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	福岡県築上郡吉富町大字直江77 - 4		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果確定日	平成23年3月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだんらんは、「地域とのつながりを大切にすること」を理念にかかげ平成16年に設立された。場所は、JR三毛門駅又は、吉富駅より車で5分程で、旧国道10号線沿いに位置している。近隣には、公共施設、スーパー、小、中学校等があり、学童達とすれ違う際には挨拶を交わしている。また、施設への違和感もなく登下校時は自由にトイレを利用し、その祭利用者の方の話し相手となっている。施設としては、積極的に地域へ出向く事で最近では祭り事等にお誘いを受けるようになった。地域の方々には、施設の取り組みが理解されつつある様に感じる。職員は、ご利用者、ご家族の側に立った考え方をを行い、安心して、安全な生活を送れるよう自己満足に終わることなく、常に振り返りながら、最良の支援を行っているよう模索している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりが、地域密着型サービスの意義を理解し、事業所の理念を実践している。特に、地域の中での事業所の役割を念頭に、地域住民の一員として、清掃活動、老人会等、地域行事には積極的に参加し、中学校の職場体験の受け入れ等、広く地域に開かれた事業所運営を行なっている。その姿勢も認められ、事業所内の行事やレクリエーションには、必ず地域のボランティアの参加がある等、日常的なつきあいが見られる。同時に、入居者の地域資源活用にも熱心で、公民館で開催される催しに参加したり、スーパーや美容院等、馴染みの場所等にも積極的に出掛けている。また室内は、直線を排した造りで、各所にさりげなく住時をしのばせる調度品を配す等、家庭的な雰囲気の出出しに努めていることがうかがえる。職員間の連携もよく、業務についての意見交換や、提案も怠りなく行なわれる雰囲気が確保されていることも確認出来た。現在、アセスメントについても、センター方式に取り組む等、より本人本人の支援に向けての前向きな取り組みが見られる。今後の展開が楽しみな事業所である。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者、ご家族が常に閲覧できるよう掲示している。理念を常に具体化する方法を模索しながら人生の先輩が安心して暮らせる様つとめている。	設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念が作成され、掲示、及び管理者が申し送りや研修時等にコメントすることで、内容の共有が図られている。職員各自が、自分の言葉で、理念について、語る様子から、その実践が確認出来た。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた地域で生活をする為には、地域へ根ざし地域の一員として、祭事への参加や 施設が交流の場となるよう目指している。	地域の中での事業所の役割を念頭に、中学校の職場体験の受け入れや、清掃活動、老人会等、地域行事には積極的に参加している。また事業所内の行事には、必ず地域のボランティアの参加がある等、日常的なつきあいが見られる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の役目として、催し物へのお誘いをかけ気楽に来所できるよう心がけたり、地域の方々に理解して頂く為訪問を行う等積極的に地域へ出向いている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者を招き定期的に開催している。これを行う事で施設内での活動状況や、福祉制度の動向等必要な情報交換を行い、サービスの向上としている。	自治会長や、民生委員、家族代表、町福祉課職員等の参加により、2ヶ月に1回実施されている。運営状況を始め、外部評価の説明や事故報告等の情報発信がなされ、意見交換が行われている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な会議へ出席して頂いたり、市町村担当者と連絡をとったり訪問を行い情報の交換を行っている。	挨拶程度の訪問から相談まで、定期的に訪れ、情報交換を行っている。また登録者増加に向けて、広報誌掲載依頼を行なう等、積極的な働きかけも試みている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は原則行っていない。新人オリエンテーション時には、書面をもって説明し、徹底している。現在一名の方のみ入床時には転落防止の為に、家族の同意を得てベッド柵を行っている。	マニュアルは完備されているものの、身体拘束の内容についての理解は、十分とは言えない面がある。  身体拘束についての理解を、より深める為に研修の実施やマニュアルの徹底を期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人オリエンテーション時書面をもって指導を行っている。学習会を行っている。	

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通しスタッフには、集合伝達の形で学習会を開き、周知徹底するよう努めている。	現在、制度の利用者はいないが、外部研修への参加と、その後の伝達研修を実施し、制度の意義と内容の理解に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはご家族、ご本人を前に契約書の説明を行い納得されたうえで契約書にサインをもらっている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族の参加、面会、イベントまた、カンファレンス参加へのご案内をおこなっている。	日常の暮らしの中で、本人の思いを受け止め、傾聴に努めるとともに、家族を通して、要望や意見の収集を行なっている。特に面会時には、時間をとり、コミュニケーションを図っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署で会議を行い、それを管理者会議へ提案し必要時結果を各部署へおろしている。	管理者は、職員が意見や相談をし易い雰囲気作りに努めている。職員へのヒアリングから、相談や提案がしやすいこと、実際に職員の提案が採用されていることが確認出来た。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会への参加の促しや、各部署の話し合いを持って意見を表出する場面を設けている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女年齢問わず採用し、職員間で意見の交換場がある。	職員採用にあたり、性別や年齢、経験を理由に採用対象から排除することはない。また職場内において、会議や研修、イベントの際に、職員の培ってきた体験を活かしたり、提案や発表が自由に出来る機会が確保されている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人情報保護、虐待防止書面及び学習会を行っている。個人情報保護方針、個人情報の利用目的の掲示あり。	日常業務に関連付け、個人情報保護や、虐待防止についての勉強会を実施している。また職員閲覧資料の中に、新聞記事を題材に「尊厳について」の理解を促すものも見られ、人権についての理解を深めようとする姿勢がうかがえる。併せて、日頃の言葉遣いに配慮するよう努めている。	

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の回覧、施設内でも合同で学習会を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学者の受け入れまた、他施設への見学を行い、イベントについては、関係施設へご案内をしている。しかし、全体的な交流は行われていない為に今後は必要と思われる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の全てを受け入れる事を第一にした対応をとる。本人の苦しみを分かろうとする態度を示す事から伝える。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような相談内容でも、聞く姿勢がある。相手の都合に合わせてた受付をおこなっている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能なサービスを伝え、必用時他施設の紹介を行っている。また、家族への支援も心掛けている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	マンパワーの不足や、ご利用者の機能低下により一方的な対応となっている部分も見られる。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回ご本人の様子を「だんらんたより」で、ご本人の状況を郵送し、またご本人の思いをご家族へ代弁している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭り事への参加を行い、知り合いに会われ、楽しく会話される事も多い。	友人の面会が途切れないよう配慮したり、知人の参加する祭り等の地域行事に参加している。また家族の協力を得ながら、スーパーや公民館、美容院等、馴染みの場所を利用する等の支援を行っている。	

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	レクや一日の生活の流れの中で、声かけや誘う事 で皆と共有出来るよう努めている。利用者間のトラ ブル解決において不満が残らない様、職員間で情 報を共有し、注意して対応している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相手から相談があった時には対応している。また、 いつでも対応時の準備は出来ている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人の思い意向の把握は、コミュニケーションで 伝わってくるが、解決出来ない事もある。施設環 境により限界を感じている。	日々の暮らしの中での本人の言動や、職員の気 付き、また家族からの情報をもとに、一人ひとりの 思いを汲み取るよう努めている。またこれらをアセ スメントに反映させ、より本人本位の支援が出来 るよう試行している。	アセスメントについては、現在検討中との ことで、センター方式を試みる等、当初 のADL中心や情報提供書に依存している ものから、より本人本位の視点を尊重した ものへと脱却を図っている様子がうかがえ る。今後の更なる充実を期待したい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	家族、本人、その他関係者より情報収集し ている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて、その時々 の心身の状態等見ながら支援するよう努めて いる。情報の共有を常に図っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	主治医参加により、ケアカンファレンスを行 っている。ご家族様は声かけするも、参加 はされていない。要望等伺い、スタッフ間で 意見交換し、ケアプランを作成している。	アセスメントをもとに、事前に聴取した家族の 意見や職員の日頃の気付きを参考に、医師も参 加する会議で、意見交換しながら、本人本位の計 画の作成に努めている。モニタリングもなされ、現 状に即した計画の変更も行なっている。	計画書について、見直しはなされている が、ニーズや課題に変化が見られず、達 成の度合や変化の様子が分かり難い。短 期目標の設定を、より具体的に行ない、検 証することで、より本人の現状に即した計 画の作成を期待したい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しなが ら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な事は個別記録や伝達ノートで二重 チェックで共有している。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ支援やサービス内容を考え直し、施行している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議で活動の報告や地域の行事に参加支援を行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医の往診やカンファレンスでスタッフとの話し合いがあり、適切な指示を受けている。常勤の看護師も確保している。	入居前からのかかりつけ医を尊重している。受診については、家族対応であるが、家族が出来ない場合は、職員が対応している。関係医療機関の医師も定期的に往診しており、日頃から事業所との連携も良好である。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行いスタッフが確認した情報を看護師に報告し、必要時指示を受けている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療施設への入院時、サマリーでその情報を提供している。主治医の病院に入退院の場合は、良い関係が出来ていると思うが、情報の提供に留まっている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについて、方針等家族と話し合いを契約時に行っている。	契約時、指針を示し、同意書を交わしている。協力医療機関の医師も、非常に協力的であり、急変時にも直ちに対応する等、連携も良好である。現在までのところ、看取りは行っていない。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていない。事故マニュアルはあり。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災訓練は行えている。地震、水害も今後行っていきたい。地域の方の参加もあり、昼夜問わず、想定した訓練も行っている。	年に2回訓練を実施しており、内1回は、消防署の立会いも見られる。地域住民の参加もあり、協力体制も築かれている。マニュアル、緊急時の連絡網も整備されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念を念頭におき常に振り返る事している。言葉や態度には注意しているつもりであるが、ごくたまに反省する自分もいる。	入居者一人ひとりの個性に合った生活を尊重し、言葉掛けや、態度に、プライバシーを損ねないよう努めている。研修報告書に記された、職員の視点にプライバシーの尊重に努めようとする姿勢がうかがえる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状により困難な方もいらっしゃるが、自己決定の場を作り、声かけを行っている。日常生活のふとした会話や発言、行動の中から感じとっていくようにする。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の計画は決まっている。体操やレクリエーションは強制でないものほとんどの方が参加されている。その他の時間はその方のペースで過ごして頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何気ない声かけやスタッフもおしゃれには配慮している。自己決定出来ない方には、スタッフと共におしゃれをして頂く。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回皆様の好みを聞き、献立を立て、調理を楽しんでいる。普段のティータイムはカップ、皿等洗浄して頂いている。体力気力に応じ出来る事を行ってもらっている。	入居者は、出来る範囲で準備(盛り付け)や片付けを行なっている。一人ひとりが好みのカップを使用し、人によっては、持ち易い皿を使用する等の工夫を行なっている。食事は、職員同席で同じ物を食し、和やかな雰囲気である。献立については、入居者の好みも踏まえ栄養士が作成し、カロリー計算もなされている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養師管理の下、食事提供している。体調により、軟飯刻み食等対応している。水分補給についてはスタッフが十分な注意をしている。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っており、就寝前には義歯の洗浄を行っている。数名の方は、声かけを必要としている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立維持を保つ為に、日中、夜間の区別をし、原則使い慣れた布ショーツの使用をしている。しかし、尿とりパット等リハビリ用品に頼る方もいるがその方の機能に合った支援を行っている。	排泄チェック表をもとに入居者各自のパターンを把握しており、頻尿、排便困難等、一人ひとりの状態を踏まえ、日中と夜間では異なる支援を行なっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面の事は栄養師また、身体面の相談は主治医の定期的な受診を行う事で解決できている。日常生活では、十分な補水や強度運動を心掛けている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な日時は決めているが、本人の体調や意思を尊重し柔軟に変更している。	基本的には、2日に1回、一人ずつの入浴である。その日の本人の意向や体調を尊重し、臨機応変に対応している。シャンプーや石鹸等は、個人の好みに応じている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の予定をもって過ごされているが、ご本人の意思、体調を把握し訴え等考慮しながら過ごせる様努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用されている内容の処方せんを、スタッフ全員が閲覧できるような管理を行っている。必要時、意見交換や書面をもって情報をながしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、残存機能の維持また、楽しみの一つとして、ご自身が負担なく出来る事を行える様支援している。今後、具体的に個々の楽しみを見つけたい。		



福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族への支援の要請はもとより、地域資源の活用の支援また、ご希望に沿うように必要などときにはスタッフが可能な限り支援を行っている。</p>	<p>日常的に散歩や買物等、外出の機会を設けている。隣接する小規模多機能型事業所の菜園に行ったり、公民館で開催される催しに参加したりと、地域資源を活用する外出支援を実施している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人からご希望があり、ご家族の理解を得た後、数名の方は所持している。他の方は施設管理している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人から家族、友人等への電話の希望がある時には、支援を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前から使用しているなじみの品物を持ち込んだり、四季の花を飾ったり、スタッフと共同で作成した作品を展示を行っている。室温に関しては、チェック表を用いて調節している。</p>	<p>直線を排した造りや、廊下のコーナーに設置された飾り棚、また畳コーナーにさりげなく配された往時を思わせるタンスや鏡台等、全体的に家庭的な雰囲気がある。また入居者と職員が作った季節の飾りが、彩りと潤いを与えている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者の行動を強制せず、本人の意思で自由にリビングや居室で過ごせる様雰囲気を作っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>古くなった物でも、本人の思いを第一とし、使い慣れた自分の物を持ち込み、飾っている。</p>	<p>各居室には、使い慣れた調度品や好みのものが持ち込まれており、本人や家族の意向を尊重した本人本意の空間作りに努めていることがうかがえる。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全室バリアフリーで手すりやスロープも設置し、安全に過ごせる様環境作りを行っている。居室のネームやトイレの表示も分かりやすく大きくしている。</p>		